

授業概要 地域生活をする子どもと家族の支援を考える

現在、日本では子どもと家族を取り巻く社会構造が大きく変化している。少子化と高齢化に加え、多様な家族のカタチや個人主義、単に男性/女性の役割に規定されない働き方や生活スタイルは、かつて農業を中心として、家族や隣近所で助け合ってきたような「地域」の生活について、特に都心部を中心に成り立たなくなりつつある。このような地域社会の変化は子どもと家族にどのような影響をおよぼし、どのように家族を地域で支援することができるのか。本講義では、様々な子育て家族の現状を取り上げ、どのような社会政策や自助活動が存在し、家族とは何か、支援とは何かについて、テキストや視聴覚教材、様々な事例や当事者の声を通して学ぶ。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	総論：多様な家族のカタチと個人主義
第3回	社会構造の変化と子どもと子育て家族への「支援」
第4回	未婚化・晩婚化・少子化・高齢化と子どもと家族の推移と動向
第5回	子どもと家族を支援する地域社会の公助と自助
第6回	子どもと家族を支援する社会政策：事例
第7回	子どもと家族を支援する自助：地域子育て支援拠点事業
第8回	子どもの貧困対策と保育所待機児童
第9回	出生前診断と障がいのある子どもと家族：障害児の状況と地域支援体制
第10回	不妊治療と家庭的養育・特別養子縁組など
第11回	LGBT 問題を抱える子どもと家族への支援
第12回	子育て支援の制度と連携：事例
第13回	海外における子育て支援：北欧・ヨーロッパ
第14回	海外における子育て支援：米国
第15回	まとめ
第16回	試験

到達目標

日本の家庭を取り巻く社会背景と現状を知り、多様な家族の形態を理解することができるようになる。更に、子育ての本質とは何か、なぜ子育て支援が必要なのか、具体的な支援の方法などについて、自分の意見を考えて述べるようになる。

履修上の注意

毎回、出席をとります。講義開始後 30 分までは遅刻、それ以降は欠席扱いですが、公共交通機関の遅延など特別の事情がある場合は証明書の提出にて考慮します。なお、遅刻や欠席はやむを得ない場合を除いて、できるだけ無い様にして下さい。講義中の私語やスマートフォン、ゲームなどの使用、無断の出入り、他の受講者に迷惑となる行為等は禁止し、減点対象とします。連絡事項や質問等は、講義終了後または授業で使用するコミュニケーションペーパーやミニレポートに記入をお願いします。

予習・復習

講義に関するテーマにつて、また子育てに関する諸制度や社会施策、実践活動などについて、新聞記事や雑誌、インターネットなどのメディア等を通して、自ら興味をもつ癖をつけて下さい。また、時間を見つけて子育て支援の現場を来訪したり、ボランティア活動を通して、子どもと家族の現状の一部でも良いので、理解できるように現場から学ぶよう努めて下さい。

評価方法

成績は定期試験を 70%、講義中のレポートと参加態度を総合的に勘案して 30 %を目安に評価します。なお、授業態度や提出物の不備等は減点法で採点します。

テキスト

上野善子, 2018「子どもと家族の支援論ワークノートー地域での支援を考えるためにー」を使用し、その他、追加のレジュメなども配布します。参考文献は、木村草太他, 2018「子どもの人権をまもるために (犀の教室)」晶文社など、その他講義時に提示します。